

ここからは皆さんの素朴な疑問にお答えします

想定浸水深とは

昭島市では2017年に発行したハザードマップを、2020年に改訂して全世帯に配布しています。またこの情報は2024年6月発行の防災知っ手帖にも記載しています。全然見ていない人がいる様で残念。

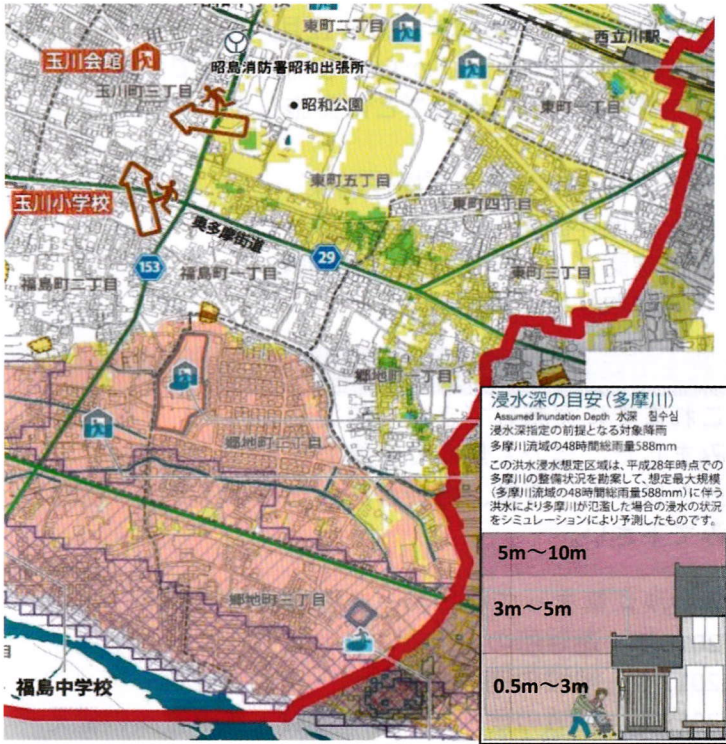
(1) 多摩川が大雨で氾濫した際に、どの地域にどの程度の浸水が生ずるかが記載されています。

(2) 同じく残堀川が氾濫した場合の浸水状況も記載されています。

(3) 多摩川の堤防が決壊するなど水流により家屋の倒壊が予想される事態も記載されています。ぜひ「ハザードマップ」を確認して、自宅がどの程度浸水する可能性があるか認識して下さい。

昭島市ハザードマップ (郷地・東町付近)

2020年6月発行版(全戸配布)



なお、具体的に自宅の周りでどの程度の水が襲ってくるのかを電柱に記載しているものもあります。



電柱への
掲示の例



1989年に超大型台風が襲来したときの多摩川の様子 (防災ガイドブックより)

大地震で火が発生したらだれが消すの？

大地震が発生した場合、同じところに各地で火災が発生すると消防車の台数が足りず、すぐには全ての火災現場に行けない状況もあります。また道路に建物や街路樹が倒壊していたりして消防車が動けない地域も出てくるかもしれません。

そのような事態に対応できるのが、

(1) 家庭内の消火器等です。 →
火が小さなうちに消火するのが基本です。

ぜひ家庭にも家庭用消火器を備えましょう。



(2) 家の外には街頭消火器が配置されています。 →

自分の家の近所や日ごろ通る道の近くにある街頭消火器を確認しておき、いざという時に備えましょう。



(3) スタンドパイプが各自治会に保管されています。 →

消火栓に接続して放水します。いざというときに地域住民が放水作業できるように、日頃操作訓練しておくとともに自宅近所の消火栓の場所を把握しておくことが重要です。

ただし、通常の火災では119番通報で消防車が駆けつけるのでスタンドパイプは使用しません。

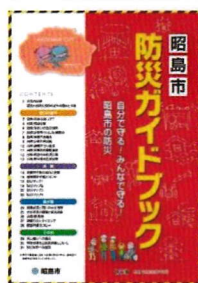


避難所の食料備蓄は何人分あるの？

大地震が発生した場合の学校避難所として、この地域では「共成小学校」「東小学校」が指定されています。では大地震が発生して自宅に住めない場合にはそこに行ったらどのくらい食べ物が備蓄されているの？

市内に24か所ある学校避難所には当座の食料しか備蓄されていません。それとは別に大型の備蓄倉庫が市内に10か所あり、必要に応じてそこから順次学校避難所等に支給されます。

参考資料



2022/2版 全戸配布



2023/11版 全戸配布

